

科目名	マクロ経済学			
授業形態	講義	学年	1	
開講時期	2022年度 後期	単位数	2	
担当教員	木谷 耕平			
内容および計画	<p>この授業では、マクロ経済学のより発展的なトピックについて学ぶ。経済では、不況や好況といった変動が発生する。経済の変動は我々の生活に大きな影響を与える（例えば不況時には失業が発生し、多くの人々の生活に影響する）。こうした経済変動がなぜ起こるのか、それに対してどのような政策があるのか、について考察することがこの授業の中心的なテーマである。短期の経済変動について学んだ後は、マクロ経済学基礎でも扱った経済成長について改めて考察する。経済成長の理論を紹介し、一国や地域が成長するためにはどうすればよいのかを考える。</p> <p>マクロ経済学基礎と同じく、この授業では、講義に加え問題演習を行うことで理解を深める。なお、履修において四則演算より高度な数学の知識は必要ない（必要な場合、適宜授業内で解説する）。</p>			
1	イントロダクション：マクロ経済学の基礎知識の確認			
2	短期の経済変動（1） 景気循環に関する事実			
3	短期の経済変動（2） 総需要と総供給			
4	短期の経済変動（3） 財市場とIS分析			
5	短期の経済変動（4） 貨幣市場とLM分析			
6	短期の経済変動（5） IS-LMモデルによる変動の説明			
7	短期の経済変動（6） IS-LMと総需要曲線			
8	短期の経済変動（7） 金融政策の効果			
9	短期の経済変動（8） 財政政策の効果			
10	短期の経済変動（9） インフレ率と失業率の短期的トレードオフ関係			
11	短期の経済変動（10） 開放経済			
12	経済成長の理論（1） ハロッド・ドーマーのモデル			
13	経済成長の理論（2） 新古典派理論			
14	経済成長の理論（3） 内生的成長理論			
15	授業のまとめ			
教科書				
	タイトル	著者名	出版社	発行年
	『マンキュー経済学II マクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019
参考書	井堀利宏 『入門マクロ経済学 第4版』 新世社 N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学I 入門篇（第4版）』 東洋経済新報社			
成績評価				
	評価方法			割合(%)
	期末試験			70
	小テスト			30

<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、数回実施する。詳細は、最初の授業で説明する。 ・期末試験及び小テストは持ち込み不可。 	
学習到達目標	マクロ経済学基礎に引き続き、以下の3点をこの授業の到達目標とする。①マクロ経済学の用語や考え方を理解する。②マクロ経済学の考え方を現実社会の問題に応用し、分析できる。③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。
先修条件	マクロ経済学基礎を履修済みであること。
実務経験	実務経験あり：日本の政府系機関にて、発展途上国のマクロ経済及び債務持続性の分析に従事した（1年半）。こうした経験から得た知見も踏まえて講義を行う。
その他	私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。